

## 26 病理診断科研修プログラムの概要

### 1. プログラムの目的と特徴

#### 〔主な業務〕

当科の主な業務は、年間約 8,000 件の生検・手術標本の組織診断、約 250 件の術中迅速組織診断、約 7,000 件の細胞診、約 30 体の剖検です。総合病院のメリットを活かし、毎日の診療の中で豊富かつ偏りのない症例を経験できる環境にあり、幅広い知識の習得が望まれる病理研修においては十分であると自負しています。私たちは単に病理標本に病理診断という名前をつけるだけでなく、それが臨床診断、臨床像との関係でどのような意味を持つのかを重視し、またオーダーリングシステムを活用した診断結果報告の迅速化を目指しています。生検・手術症例、剖検症例について他科と定期的なカンファレンスも行っています。新しい知見や希少症例についての情報を取得するため、あるいは自分たちの経験を公表するため、院外での臨床および病理の学会・研究会に積極的に参加しています。

医師数     スタッフ 2名

(2010年10月1日現在)

資格等     病理専門医 2名、細胞診専門医 2名

平成 20 年 4 月、病理は厚生労働省の定める標榜科 ("病理診断科") として認められました。私たちは病理診断を診療行為と考え、最新の知見に基づいた病理診断を下し、患者さんの治療に貢献していくことを目標としています。

### 2. 研修内容と到達目標

#### 【一般目標】

病理専門医として適切な診療活動を行っていくために、病理診断業務に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。

#### 【行動目標】

1 年目

病理業務に関連する法規および制度を説明できる。

病理標本の作製過程を説明できる。

病理検査に関するリスクを理解し、安全に業務を遂行できる。

ホルマリン等の病理業務で扱う危険物を挙げ、安全対策、廃棄方法を説明できる。

周囲のコメディカルスタッフや臨床医と協調して業務が遂行できる。

取扱い規約に基づいた代表的な臓器、病変の切り出しができる。

顕微鏡を使用し、組織標本の所見を抽出しそれを説明することができる。

代表的な特殊染色（免疫染色を含む）の意義を説明し、正しく評価することができる。

特殊染色のオーダーができる。

死者を敬い、遺族に配慮して解剖に臨むことができる。

病理解剖を執刀できる。

積極的に学会・研究会に参加する。

## 2年目

指導医の検閲を得た上で、生検・手術材料の病理診断報告書を作成することができる。

指導医の検閲を得た上で、代表的な細胞診検体について、報告書を作成することができる。

指導医の検閲を得た上で、臨床上の問題点を把握し、剖検所見から妥当な結論を導き出し、剖検報告書を作成することができる。

病理診断報告書の内容について、臨床医と議論することができる。

## 3年目

1・2年目に得た知識・技術を活かし、病理医としての更なる診断能力向上を目指して研鑽を積むことができる。

病理学的所見をまとめ、考察し、カンファレンスで発表することができる。

学会で積極的に症例報告を行うことができる。

診断困難な症例について、臨床医に問題点を説明し、専門の病理医にコンサルテーションを依頼することができる。

診断に必要な分子診断を説明できる。

臨床研究に必要な法規、制度を説明できる。

## 【スケジュール】

水 毎週 乳腺抄読会（乳腺外科、放射線診断科、放射線治療科、病理）

水 毎週 乳腺がんサージカルボード（乳腺外科、放射線診断科、放射線治療科、病理）

木 毎週 上部消化管がんサージカルボード（消化器外科、消化器内科、放射線診断科、病理）

木 月1回 部内勉強会

C P C 年12回以上

## 【子育て支援】

病理医を志望する女性医師は増加しており、当科でも病理医を目指す女性を支援していきたいと考えています。研修期間中の出産、育児については十分に配慮します。また、病理には非常勤医師としての就職先も多く、最近では社会人大学院も増えており、研修終了後

は希望する生活スタイルに合わせて勤務や研修の形態を考えることが可能です。将来の進路については状況に応じて変化することと思いますが、当科での研修中に随時、ご相談ください。

#### 【専門医等の取得】

2年間の研修の後、死体解剖資格が取得できます。

当プログラム（3年）修了後、さらに1年間の研修を経て、病理専門医の受験資格が取得できます。受験のために必要な剖検数（50体）や組織（5,000件）・細胞診（1,000件）検査の数は十分に経験できます。

通常、病理専門医取得の翌年に細胞診専門医の受験が可能です。

#### 【研修後の進路】

個人の希望を話し合った上で、責任を持って適切な医療機関、研究機関へ推薦します。また、学位取得希望者には、大学病理学教室への推薦もいたします。